

## 第 2 回 静岡市清水地区 L R T 導入検討協議会

- 1 日 時 平成 2 5 年 3 月 6 日 (水) 9 時 3 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分
- 2 場 所 清水テルサ 7 階 中会議室 A
- 3 出席者 (委 員) 川口会長、遠藤委員、小川委員、水島委員  
小股委員、春田委員、笠井委員、大井委員、齋藤委員、  
新聞委員 (代理: 小坂委員)、柳沢委員、風間委員  
(関係者) 松本委員、古屋委員、寺田委員、  
鈴木委員 (代理: 宮原委員)  
(事務局) 小長谷都市計画部長、小林参与兼交通政策課長、  
吉川統括副主幹、竹下主査、鏡味主任技師
- 6 議 題 (1) 清水地区における L R T ルート設定と利活用による導入効果
- 7 会議内容  
(1) 第 1 回協議会の指摘事項と対応 (案)  
(2) 清水都心 (清水ルート) におけるルート設定の考え方  
(3) 設定ルートの利活用による清水都心で期待される効果、効果のイメージ  
(4) 清水ルートにおける需要及び採算性  
(5) 清水ルートにおける軌道整備の考え方  
(6) 清水ルートの導入に向けた研究会で示された課題解決の方向性  
(7) 静岡市における L R T 導入の効果

## ○意見交換

## ～L R T 整備の目的～

- ・清水のまちづくりや賑わいの創出といった施策を示したうえで、L R T の必要性を導くプロセスがあるべき。また、歩行空間の充実や B R T などのシステムより L R T の整備が望ましい理由の説明も必要である。
- ・ルート設定とも関係するが、誰がどのような移動目的で L R T を利用するのか、すなわちターゲットを明確にするべき。これは L R T の必要性を示すことにも繋がる。
- ・L R T 導入の意義や位置づけは、多くの市民から理解を得るために今後何度も議論や説明をしていく必要がある。

## ～需要及び採算性～

- ・今回提示された需要について、その算出根拠を更に示す必要がある。

- ・交通事業は一般的に単独で採算を得ることが難しいが、本LRTについても同様の試算結果となった。今後は需要を増やす方策を議論することに加えて、公共交通の位置づけとこれを整備し維持するための負担に対して、市民の合意をどのように得ていくかが重要な議題となる。

#### ～ルート～

- ・示されたルートが日の出地区の開発等を見据えたものであることは理解するが、現時点で居住人口の多い地区にこそLRTを導入して、その利便性を多くの市民が享受できるようにするべきではないか。これにより民間が主体となった地域の発展も期待できる。
- ・JR清水駅の接続は、市街地であり将来延伸の可能性もある西口側が望ましいと考える。清水橋通過の可否は、更に技術的な検討の継続が必要である。

#### ～その他～

- ・港に人を呼ぶのであれば、津波の心配もあるので、今後震災や防災の観点の費用を入れていくべきである。